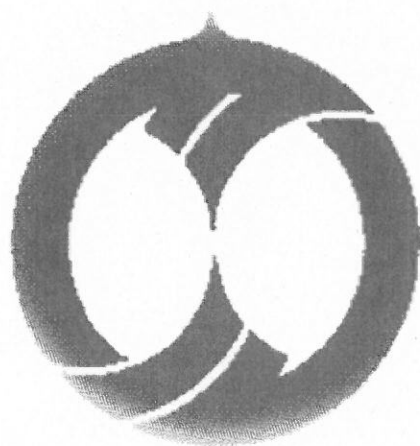


軽米町バイオマス産業都市構想



軽 米 町

令和1年7月

目 次

1	地域の概要.....	1
1.1	対象地域の範囲.....	1
1.2	作成主体.....	2
1.3	社会的特色.....	2
1.3.1	歴史・沿革.....	2
1.3.2	人口.....	2
1.4	地理的特色.....	3
1.4.1	位置・地形.....	3
1.4.2	交通体系.....	3
1.4.3	気候.....	3
1.4.4	面積.....	4
1.5	経済的特色.....	5
1.5.1	産業別人口.....	5
1.5.2	事業所数.....	5
1.5.3	農業.....	6
1.5.4	林業.....	7
1.5.5	商業.....	8
1.5.6	工業（製造業）.....	8
1.5.7	観光.....	8
1.6	再生可能エネルギーの取組.....	9
2	地域のバイオマス利用の現状と課題.....	10
2.1	バイオマスの種類別賦存量と利用量.....	10
2.2	バイオマス利用状況及び課題.....	13
3	目指すべき将来像と目標.....	14
3.1	背景と趣旨.....	14
3.2	目指すべき将来像.....	15
3.3	達成すべき目標.....	16
3.3.1	計画期間.....	16
3.3.2	バイオマス利用目標.....	16
4	事業化プロジェクト.....	19
4.1	基本方針.....	19
4.2	家畜廃棄物等による堆肥等製造事業.....	20
4.3	可燃ごみバイオ固形燃料製造事業.....	22
4.4	家畜廃棄物による発電等事業.....	24
4.5	家畜・木質廃棄物等によるバイオガス製造事業.....	26
4.6	その他バイオマス活用プロジェクト.....	28
4.6.1	既存事業の推進.....	28
4.6.2	ごみの減量化の推進.....	28
4.6.3	家畜廃棄物の活用推進.....	28

4.7	バイオマス以外の再生可能エネルギー	28
5	地域波及効果	29
5.1	経済波及効果.....	29
5.2	新規雇用創出効果.....	30
5.3	その他の波及効果.....	30
5.4	その他波及効果の指標	30
6	実施体制.....	32
6.1	構想の推進体制	32
6.2	検討状況	33
7	フォローアップの方法.....	34
7.1	取組工程.....	34
7.2	進捗管理の指標例	35
7.3	効果の検証.....	37
7.3.1	取組効果の客観的検証	37
7.3.2	中間評価と事後評価.....	38
8	他の地域計画との有機的連携.....	40

1.2 作成主体

本構想の作成主体は、岩手県軽米町（全域）とする。

1.3 社会的特色

1.3.1 歴史・沿革

本町の歴史は古く、土器などの出土などから縄文時代には既に人が暮らしていたことが知られている。江戸時代には、八戸藩の支配地域となり明治維新後は八戸県、弘前県、盛岡県、そして現在の岩手県の所属と幾度となく変遷してきた。

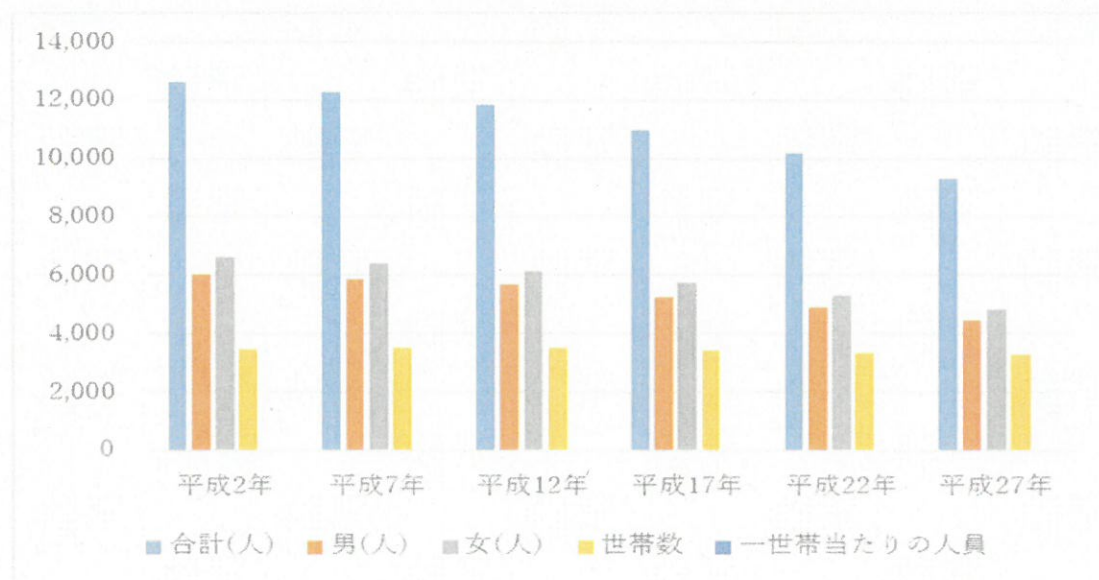
昭和30年に1町2村が合併し、現在の軽米町となったが、行政関係は岩手県であっても青森県や八戸市の経済的・社会的な影響を受けている。

自治体を取り巻く状況は、急速に進む少子高齢化など大きく変化する時代の中で、多様化・複雑化する地域課題を解決し、誰もが安全で安心して快適に暮らせる持続可能な町づくりを進めている。

1.3.2 人口

本町の人口は、年々減少しており、平成2年に12,646人（男性6,035人、女性6,611人）であったものが、平成27年には9,333人（男性4,489人、女性4,844人）と1万人を割り込み、少子高齢化が加速度的に進んでいる。こうした状況から一般廃棄物も10%程度減少しているが、下水道普及等からし尿処理量は増加している。

図表 2 人口・世帯数・世帯あたり人数の推移



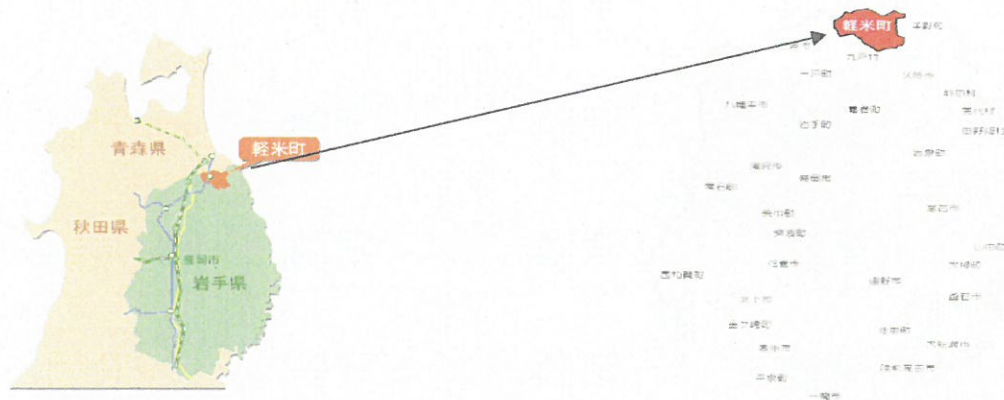
出典：国勢調査

1.4 地理的特色

1.4.1 位置・地形

本町は、岩手県の最北端に位置しており、東は洋野町、西は二戸市、南は久慈市及び九戸村、北は青森県八戸市、南部町及び階上町に接している。町内を雪谷川と瀬月内川が流れ青森県八戸市を経て太平洋に注がれている。総面積は約 246km² で、約 80% が山林原野で占めている。周辺を標高 550m～850m 程の低い山が囲む丘陵地帯となっており、大半の集落及び田畑が 200～300m の標高地帯に集中している。年平均の降水量は 1,000mm 程と少なく、旱魃の被害を受けやすく、夏期の異常低温、日照不足、晩雪、晩霜等が見られる地域となっている。地質は、新生代第四期火山岩類が主体で山地から北へ流れる雪谷川、瀬月内川の流域部は下流が古生層、上流部が中生層で形成され、比較的良質な土壌である。

図表 3 軽米町の位置



出典:軽米町町勢要覧等

1.4.2 交通体系

本町の交通体系は、主要道路として中心部を国道 340 号、395 号が走り、県都盛岡市までは約 100km、青森県八戸市へは約 25km の距離にあり、東北縦貫自動車道八戸線が町の中央部を南北に縦断し、町中心部から 3 分のところに軽米インターチェンジがあり比較的隣近都市へのアクセスは容易といえる。

路線バスは、岩手県北バスと JR 東日本がある。路線バスのない地域には町民バス及びコミュニティバスを運行している。

バイオマス資源は、本町全域に分布しており、収集・運搬体制はこうした交通体系等を考慮しつつ整備することが必要である。

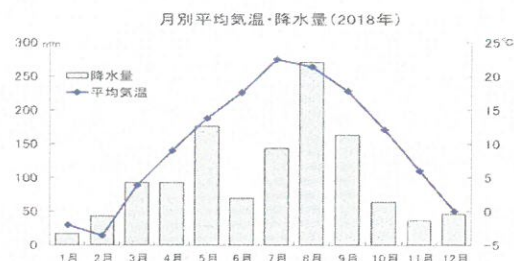
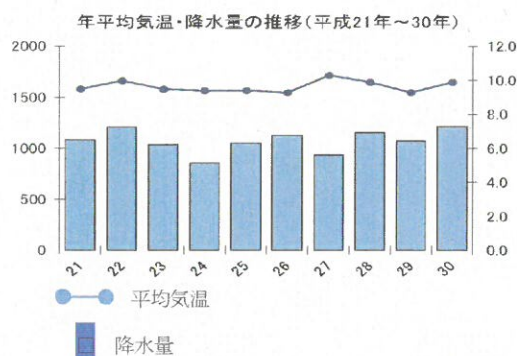
1.4.3 気候

本町の気候は比較的な冷涼で、年平均気温は 9.3℃、年間降水量は 1,053mm、年間日照時間は 1,627 時間（平成 1 年～平成 30 年）となっている。

平成 11 年には、200 年一度といわれる総雨量 230mm もの集中豪雨が 2 日間で町全域を襲い、

甚大な被害をもたらした。また、夏期の異常低温、日照不足、霧雨の連続、春期の晩雪などが度々発生するなど農業生産活動に影響を受ける場合もある。

図表 4 年平均気温・降水量等の推移



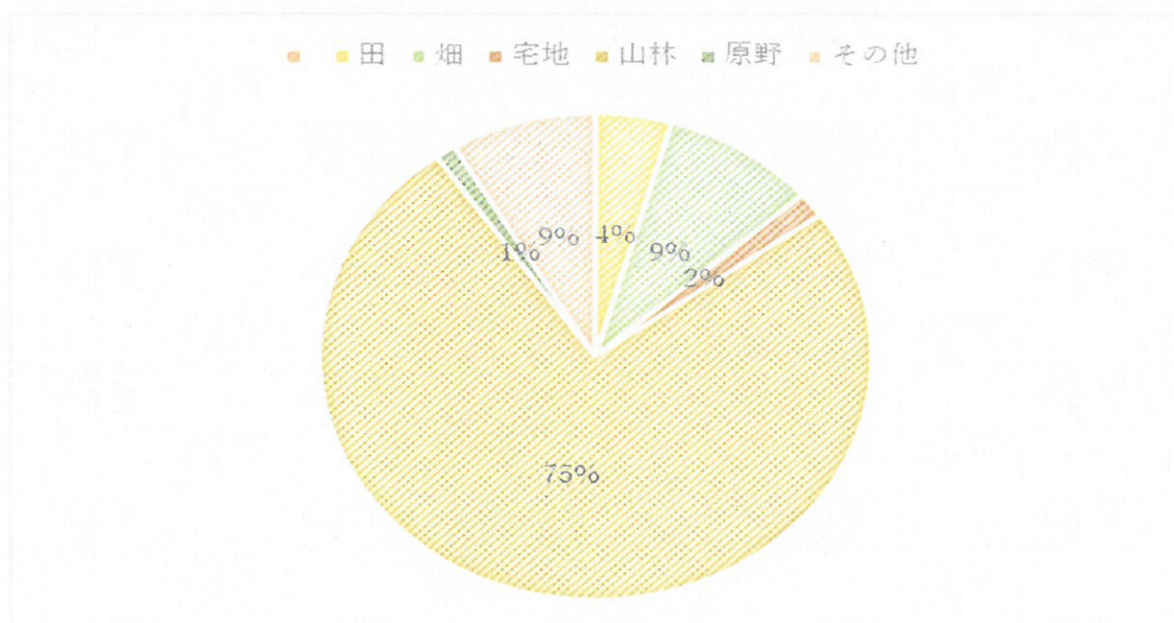
出典：盛岡地方気象台・軽米町町勢要覧等

1.4.4 面積

本町の総面積は約 246km²で、約 75%が山林で占めており、次いで畑地 9%、水田 4%余り等となっている。

森林は、木質バイオマス資源としての活用が期待されるほか、田や畑などの農用地は、植物系バイオマスの生産と副産物としての有機資源堆肥などの利用が可能である。

図表 5 土地利用状況(平成 30 年)



出典：軽米町統計資料等